

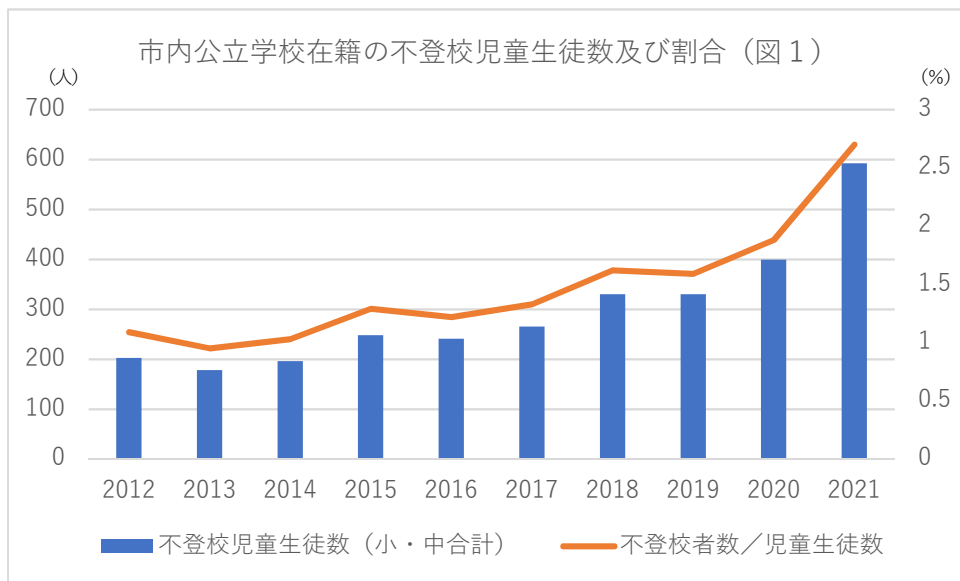
つくば市における不登校児童生徒の現状と取組

1 つくば市の不登校児童生徒の現状

(1) 不登校児童生徒数^(※1)及び割合(図1)

つくば市では不登校児童生徒数が増加傾向にあり、全児童生徒数に対する不登校児童生徒数の割合も増加している。

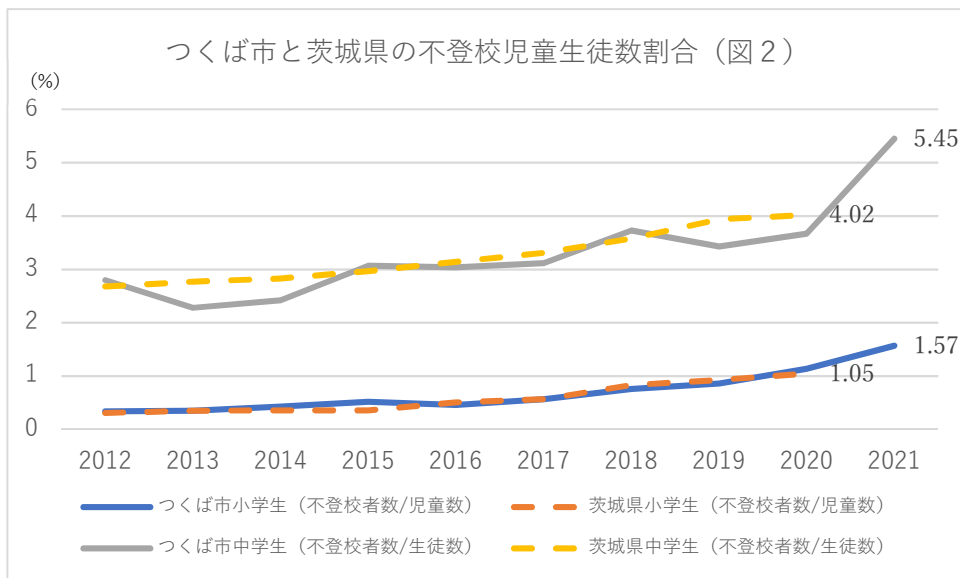
(※1) 文部科学省に報告する年間欠席日数が30日以上の子童生徒を対象としている。



(2) つくば市と茨城県の不登校児童生徒数割合(図2)

つくば市、茨城県^{※2}ともに小学生に比べ中学生の方が不登校児童生徒数の割合が高い。

(※2) 茨城県は2020年度までのデータ



(3) 不登校の主な要因と欠席日数ごとの不登校児童生徒数（表1）

令和3年度末の不登校児童生徒数は592人（小学校243人、中学校349人）であった。

令和3年度不登校児童生徒要因別欠席日数別人数（表1）

主な 要因 欠席 日数	本人		家庭			学校								その他	合計
	生活 リズム等	無気力 不安	家庭 環境	親子 関係	家庭内 不和	いじめ	友人 関係	教職員	学業	進路	部活	きまり	進級		
30～49	23	64	20	3	0	0	19	0	8	2	0	2	2	8	151
50～99	30	78	18	5	2	1	13	3	10	0	0	2	0	15	177
100～149	17	87	9	5	0	0	10	1	5	0	0	0	0	4	138
150～	10	65	16	6	1	0	14	3	3	0	0	1	1	6	126
合計	80	294	63	19	3	1	56	7	26	2	0	5	3	33	592
	374		85			100								33	592

2 不登校児童生徒に対する現在の取組

(1) 教育相談、家庭訪問による個別支援

- ① 担任を中心とした教員による教育相談の実施（随時）
- ② スクールソーシャルワーカーによる家庭訪問、訪問相談の実施（市内7名配置）
- ③ 教育相談センターにおける相談業務の実施
- ④ 不登校に関する児童生徒のための担任、スクールカウンセラーなどによるチーム支援会議

(2) 校内における通常の教室以外での支援

① 校内フリースクール

モデル校（中学校1校）に県から加配教員を2名配置してもらい、1名をフリースクールの「担任」に専任し、もう1名はフリースクールの専属の担当教員として、担任とともに教科の指導や授業に関する他教員とのコーディネート、保護者への連絡業務などを担うことで、校内の別室における居場所支援を行う。

○利用状況：10人 ※R4.5.9現在

② 別室登校

教室に入れない不登校・不登校気味の児童生徒に対し、別室支援を通して学びへの意欲や自己肯定感、登校への意欲、学力の向上などを目的に、教員が支援を行っている。スクールカウンセラーによる専門的カウンセリングや、養護教諭を中心に児童生徒に寄り添った対応も行っている。

○利用状況：76人 ※R3.9時点

上記に加え、令和4年度はNPO法人 Learning for All からモデル校（中学校1校）に支援スタッフを1名派遣し、別室登校に関わる教員やサポーターの方々と連携しながら支援を行っている。

○利用状況：3人 ※R4.5.12現在

(3) 学校外支援（公設施設）

① つくしの広場

登校できない状態の児童生徒に、人間的なふれあいを基盤とした集団生活の体験を通して、自主性・社会的適応力・自立心などを伸ばすような援助・指導を行っている。

○運営：つくば市教育局（直営）

○場所：つくば市教育相談センター内（沼田40番地2）

○入級人数：11人 ※R4.5現在（16人 ※R4.3時点）

○運営体制：週4日稼働

○特徴：小集団の活動を中心に自立支援

② むすびつくば

不登校児童生徒への学習支援策として、NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所と協働事業として開始し、令和4年度は委託事業とした。集団ではなく、個に応じた様々な学習機会を提供するとともに、一人ひとりの育ちに応じた支援等を行っている。

○運営：NPO法人リヴォルヴ学校教育研究所（委託事業（R4.4～R5.3））

○場所：つくば市産業振興センター内（吾妻二丁目5番地1）

○通所人数：33人 ※R4.4.30現在（37人 ※R4.3時点）

○運営体制：週4日稼働（通所者は週2日通所（月木・火金の2コース））

○特徴：市内で20年間に2万人への支援実績
学習障害のある児童生徒への支援に強み

③ ここにこ広場

不登校児童生徒に対し、社会的自立へ向けて進路の選択肢を広げることを目的に設置。児童生徒が学校や自宅以外の居場所と感ずることができるよう、一人ひとりに合わせた、将来を展望できるような支援を行う。

○運営：株式会社トライグループ（委託事業（R4.4～R7.3））

○場所：個別教室のトライ研究学園駅前校内（研究学園五丁目12番地10）

○通所人数：18人 ※R4.5.2現在の体験利用

○運営体制：週4日稼働

○特徴：他地域での不登校支援の実績の活用

オンライン支援の充実（通所が困難な児童生徒に対して）

※オンライン支援の例：相談支援、学習教材視聴による学習支援等

④ 民間フリースクール等の利用

令和4年3月時点では、10か所の施設に53名の児童生徒が通っていた。

- ・各フリースクールでは、プログラミング中心の活動やアニマルセラピーを活かした活動などの特徴的な取組を実施
- ・「不登校・多様な学びネットワーク茨城」には、市内で30か所程度の不登校児童生徒を支援する施設等（個別サポート施設、不登校相談施設）が参加

(4) 家庭にいる児童生徒への支援

- ① 本人、家庭、学校の関係維持のため、担任を中心とした教員による家庭訪問の実施
- ② スクールソーシャルワーカーによる家庭訪問、訪問相談の実施（市内7名配置）
- ③ 授業のライブ配信等による学習支援
- ④ 不登校に関する児童生徒のための担任、スクールカウンセラーなどによるチーム支援会議